

第3章 哲学堂公園の本質的価値

3-1 本質的価値の明示

哲学堂は、哲学上の観念を表現した七十七場により思索をめぐらせ哲学を体験できる社会教育の場として円了が構想・設計した場所である。今もなお、その構想をもとに真理を探究する場として受け継がれる「名勝哲学堂公園」の本質的価値を以下に整理する。

(1) 哲学を普及するために具現化させた文化的公園

哲学者井上円了は、哲学の概念を体系的に具現化した七十七場を配置し、その順路を巡ることにより、哲学を学び、体験できる精神修養的公園として創設した。建築物や空間、さらには石造物、碑、聯及び扁額類などに表現されたものは独創的であり、哲学の概念を七十七場で構成された類まれな固有の公園である。

円了が哲学の実行化と位置づけた哲学堂は、円了亡き後もその遺言に基づき、嫡子玄一がその精神と主義を受け継ぎ、社会教育の道場としての意義を深めながら、運動場や児童遊園などを取り入れ拡張し円了・玄一と2代により創られた文化的公園である。

(2) 風致と自然立地が活かされた景観と緑

哲学堂公園は、広がりを持った台地上に四聖堂などの哲学思想に基づいた建築物を配置した「時空岡」、妙正寺川沿いで湧水にあふれた左右両翼の低地に「唯物園」と「唯心庭」を設け、その間の斜面には哲学の概念を示す場を置くなど地形や水系など自然の要素が活かされた空間である。

哲学の概念を表象しながら、風致や立地の特性などの自然と一体となり造り出された固有の景観は、今日まで醸成された風致景観として、新たな緑の価値を創出し、憩いの場となっている。

(3) 精神修養・社会教育を継承する公園

円了から玄一に継承された哲学堂は、戦後のわが国における経済・社会が変化する中で、東京市(都)を経て、現在は中野区へと受け継がれている。七十七場のうち幾つかは失われ、一部では元の形から変化しているものの、統一された哲学の概念に基づき作られたものは、現在も良く保存されている。

哲学堂公園は、現在もなお、精神修養、社会教育の普及の場として様々な地域活動や運動・遊びなどの機能を継続し、また、周辺一帯が市街地化された中においては貴重な緑を確保した都市公園として地域に愛されている。

こうした各時代背景における所有者により継承されてきたものであり、創設当時の意志を受け継ぐことで精神修養的公園・社会教育の場として現在も存在する公園である。

3-2 構成要素の特定

(1) 哲学堂公園の価値を構成する諸要素の区分

名勝哲学堂公園の本質的価値を構成する諸要素と、本質的価値を構成する要素以外の諸要素について、円了が創造した哲学堂七十七場と、玄一が拡張した外苑に分けて表 3-1 に整理する。

表 3-1：哲学堂公園の本質的価値に関する構成要素

区分	要素	
本質的価値を構成する諸要素	哲学堂七十七場	<ul style="list-style-type: none"> ・七十七場を構成する建造物、石造物、地象、植物、空間及び石標 ・七十七場の順路 ・休憩所 ・七十七場に付属する天狗や幽霊などの像、聯や扁額類 ・円了が周遊先で収集した展示品や書物等 ・円了創設期に存在したマツ ・風致を維持する緑地や樹木
	外苑	<ul style="list-style-type: none"> ・つつじ園、菖蒲池 ・テニスコート ・野球場 ・児童遊園 ・梅林 ・哲学の庭 ・「新東京名勝 選定十六景」記念碑 ・風致を維持する緑地や樹木 ・公園の利用に供するために植栽された樹木 ・エントランスのイチョウ並木など修景上植栽された樹木
本質的価値を構成する要素以外の諸要素	哲学堂七十七場	植栽：本質的価値を構成する植栽以外の植栽
		公開・活用施設：解説板、案内板等
		休養施設：ベンチ等
		管理施設：柵・手すり等、照明・循環・給排水・消火等の設備類
		管理運営のための建物：管理棟、倉庫等
	外苑	植栽：本質的価値を構成する植栽以外の植栽
		公開・活用施設：解説板、案内板等
		休養施設：ベンチ等
		運動施設：弓道場（管理機能含む）
		便益施設：便所、売店等
		管理施設：柵等、駐輪・駐車施設、照明・循環・給排水等の設備類
		管理運営のための建物：倉庫、ゴミ置き場等

(2) 本質的価値を構成する諸要素

本質的価値を構成する諸要素には、精神修養の場として円了が哲学の概念を示した七十七場及びそれらの名称を示した石標、七十七場の順路（図 3-1）が該当する。また、玄一が哲学堂に訪れた方々に湯茶の接客として設けた休憩所も該当する。

七十七場に付属する天狗や幽霊などの像、聯や扁額類、さらには円了が周遊先で収集した展示品や書物等も該当する。なお、これらのうち天狗や幽霊の像など一部において、哲学堂公園内には複製が展示されており、現物の像は別の場所に保管されている。

円了が周遊先で収集した展示品や書物も本質的価値を構成する諸要素に該当するものであるが、その多くは現在中野区立歴史民俗資料館や東洋大学などに保管されている。

哲学堂が創設された当時のマツが生育する松林から現在の哲学堂公園の風致を維持する緑地や樹木までもが本質的価値を構成する要素である。

円了が創設した七十七場に対し、後の玄一により拡張した外苑では、つつじ園、菖蒲池、運動場として体を養うテニスコート、野球場、児童遊園、円了の 13 回忌に設けた梅林が該当する。

また、中野区立公園期に設けた哲学の庭、「新東京名勝 選定十六景」の記念碑、公園の利用に供するために植栽された樹木や、風致を維持する緑地や樹木が該当する。植栽の中には、財団運営期の図にも示され、哲学堂公園の入口となるエントランス沿いのイチョウ並木は、植栽の中でも特に重要なものとする。

(3) 本質的価値を構成する要素以外の諸要素

本質的価値を構成する要素以外の諸要素には、植栽、公開・活用施設、休養施設、運動施設、便益施設、管理施設、管理運営のための建物などに区分する。

本質的価値を構成する植栽以外の植栽として、実生木や、繁殖・拡散力が強く繁茂し、七十七場に影響を与えるおそれがある樹木、外来植物などが該当する。

公開・活用施設では、七十七場を含めた解説板、案内板、掲示板などのサイン類、哲学堂公園を紹介する展示物が該当する。

その他、休養施設、運動施設のうち弓道場、便益施設、管理施設、管理運営のための建物は、本質的価値を構成する要素以外の諸要素として扱う。

【参考】



図 3-1 : (参考) 哲学堂七十七場の順路

※図中の番号は、円了が『哲学堂独案内』でまとめた順路及び空間のまとまりを示したものである。『哲学堂独案内』に記載がある詳細の説明は資料編を参照する。